

農林水産大臣賞受賞

限界集落への危機感から
～活気と夢に満ちた農村づくりへ～

おおしゅうらくえいのうくみあい

受賞者 **農事組合法人多集落営農組合**

しきぐんたわらもとちょう
(奈良県磯城郡田原本町)

■ 地域の沿革と概要

田原本町は大和平野の中央に位置し、町の西部を曾我川・飛鳥川が、中央部を寺川が、東部を大和川（初瀬川）が北流している。これらの河川に挟まれた平坦地にあり、豊かな自然環境が広がっている。周りは山に囲まれ、夏は暑く、冬は寒い典型的な盆地型気候で、周辺の山地に比べて雨が少ないのが特徴だが、古くから農業（米作り）が盛んで、近年は、いちご、なす、ほうれんそう、トマト、花きなど、より付加価値の高い農作物の生産を目指している。

第1図 位置図



■ むらづくりの概要

1. 地区の特色

古代条里制の残る田園、多神社、多遺跡、環濠集落など歴史ある資源を次世代に受け継ぐという目標を掲げ、農業経営を計画的に進めようとする認定農業者や中核的な農家の経営安定をめざし、「集落営農組織の法人化」や「担い手農家への農地集積」により地域の推進組織の育成・強化を図るほか、田原本ブランドの特産品育成とPRを進めている。また、地産地消を通じ、食文化を深め、住民生活の質を高める食育を推進するため、JAによる直売所

第1表 地区の概要

事項	内容	
地区の規模	集落	
地区の性格	機能的な集団等	
農家率 (内訳)		9.0%
	総世帯数	11,463戸
	総農家数	1,035戸
専兼別農家数 (内訳)	専業農家	153戸
	1種兼業農家	45戸
	2種兼業農家	404戸
農用地の状況 (内訳)	総土地面積	2,109ha
	耕地面積	892ha
	田	803ha
	畑	89ha
	耕地率	42.3%
	農家一戸当たり耕地面積	0.9ha

での販売や、ふれあい朝市の開催、地元産野菜を使った学校給食・農業体験などの取り組みも行っている。

2. むらづくりの基本的特徴

(1) むらづくりの動機、背景

多地区は、奈良時代の条里制により区画整備された地形が残る水田地帯。約38haの水田は一筆10～20aの整形区画であり、まとまりのある優良農地と自然豊かな農村景観を維持してきた。

しかし、集落の西を南北に通る京奈和自動車道の整備による都市化が進行し、販売農家数が減少し、耕作を続けることのできない高齢者だけの世帯も目立つようになってきた。

このため、農家組合や自治会の役員など地域リーダーは、このままでは、限界集落にならないか、豊かな自然に囲まれた地域の農地をどのように守っていけば良いのか危機感を抱くようになった。



写真1 奈良時代・条里制の風景が残る水田

(2) むらづくりの推進体制

ア 当該集団等の組織体制、構成員の状況

多地区は、153世帯あり、130戸が多自治会に加入しており、その約半数66戸が農家、内63戸が集落営農組合に所属している。

役員は代表理事1名と理事4名、代表監事、監事各1名で構成されている。各理事を責任者とする総務部、経理部、生産部、資材・労務部、機械・施設部で構成され、各部に運営委員を置き、運営委員会、理事会の決定により組織運営がなされている。

イ 当該集団等と連携してむらづくりを行う他の組織、団体及び行政との関係

県内には、農村地域のもつ美しい景観や美味しい農産物、優れた文化や郷土食などが多く存在し、県では各地域で行われているこれらの農村の魅力を活かした地域づくりを支援しており、平成28年12月、先進的な取り組みを行っている7団体と市町村、土地改良区を会員とする『奈良県農村地域づくり協議会』が設立された。この7団体のひとつが多地区の『美しい多地区の田園風景を楽しむ会』で、地域相互の情報交換や

地域づくりのノウハウの共有、共同して情報発信を行っている。

ウ むらづくりに関して、各集落の住民の当該集団等や連携する他の組織、団体との関係及び参加状況等

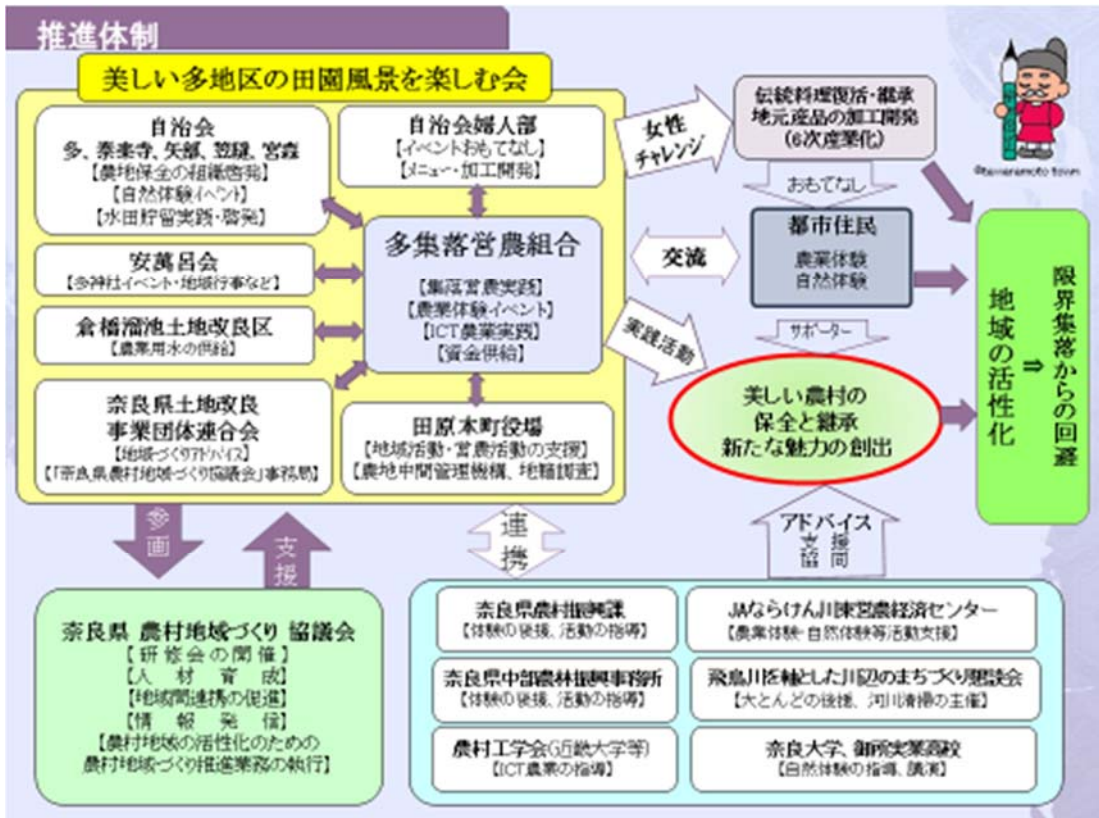
多地区は、集落を囲むように農地が広がり、地域活性化のための活動は常に集落住民が一体となった取り組みを行っている。

その中で、多集落営農組合は、自治会婦人部、自治会青年部、周辺自治会4集落とともに、農村文化の魅力を継承すること、新たな魅力を創造することによる地域の活性化を目的として、『美しい多地区の田園風景を楽しむ会』を結成した。

多集落営農組合は、その中心として、老若男女、周辺自治会、関係機関を巻き込み、①持続可能な営農の実践、②農業、農村の魅力を伝える都市農村交流、③古くから伝わる伝統行事、伝統料理の伝承、④農地・農道・用排水路等の保全、⑤地域農産物の加工品開発等の取り組みを牽引している。

また、奈良県農村地域づくり協議会のメンバーとして県内の地域づくり団体と連携した活動を行っている。更に近畿大学と連携して、圃場の水管理にICT活用を模索、自然体験「生き物観察会」を開催し、御所実業高校生に校外学習の場を提供している。

第2図 むらづくり推進体制図



■ むらづくりの特色と優秀性

1. むらづくりの性格

多地区は、まとまりのある優良農地と自然豊かな農村景観を今日まで維持してきた。しかし、京都や大阪など大都市通勤圏に位置するため、他産業に従事する担い手や高齢者のみの世帯が増加し、都市的地域でありながら、高齢化が進み、このままでは限界集落になるのではという危機感を持ち、10年以上前から、集落営農に向けた話し合いに取り組んだものである。

集落営農組織は、収益を生み出さないと存続できないという思いから、収益を上げる取り組みとしての水稻の育苗受託等の取り組みだけでなく、常に作業の省力化や経営の合理化を意識し、オペレーターの出役に見合う報酬を確保する努力を続けてきた。また、地区内の担い手への農地の集積率も非常に高く、周辺地域との良好な関係構築による規模拡大により、県下で最大の経営規模に発展してきた。

一方で、直ぐには収益に直結しない都市農村交流活動や地域内の伝統行事、自治会活動も積極的に牽引してきた。この一見、相反するかに見える活動を車の両輪としてバランスを取りながら進んできたことは、政策に置き換えると産業政策と地域政策を両輪とした施策に通ずる。おそらく、これまでのどの活動が欠けても、途中で脱輪してしまったかもしれない。

集落営農組織を核とする「美しい多地区の田園風景を楽しむ会」の地域づくり活動は住民が主役となるまちづくりの模範となっている。また、多集落営農組合は町内で唯一の法人組織で、水田を基盤とする町内の農村集落が目指すひとつの姿となっている。

また、奈良県では農村資源を活用した賑わいづくりを支援しており、「奈良県農村地域づくり協議会」の構成団体は地域づくりに先進的に取り組む団体で、各地域で特色ある活動を行っている。協議会の構成団体のほとんどが地域づくりを主目的に結成された団体であるが、集落営農組織が地域づくりの牽引役として地元自治会や婦人組織、青年組織だけでなく、地区周辺の4集落まで巻き込んだ活動を行うのは多集落営農だけである。

2. 農業生産面における特徴

(1) 当該集団等の農林漁業生産、流通面の取組状況

多地区 38ha の水田は、集落営農組織（67 戸）と専業農家（1 戸）で地

域農業を支えている。多集落営農組合は、任意組合設立当時、他府県の集落営農を学びながら手探り状態でスタートしたが、水稻、小麦など土地利用作物を経営の基幹作物とする集落営農組合設立から約 10 年で法人化し、経営の安定を図っている。

今日まで、経営所得安定対策、経営体育成支援事業等を活用し、生産基盤を築き、JA と連携し、水稻育苗や稲刈り作業を請け負うなど規模拡大を図ってきた。また、集落営農組合に農地を集積するため、なら担い手・農地サポートセンター(農地中間管理機構)も活用した。このような取り組みは、県内の集落営農組織の模範となっている。近隣の市町村で集落営農組織が設立された際にも、多集落営農組合の組合長が自らの経験を伝授した。

現在、集落営農組合で管理する水田は、隣接する集落農地を含め、52ha。組合ではコンバイン 2 台、トラクター 2 台、ブームスプレアー 1 台、田植機 1 台、格納庫等を保有し、主食用水稻 20.6ha、米粉用米 4.5ha、WCS 26.9ha、小麦 26.6ha を作付けしており、延べ 78.6ha となっている。水稻は良食味米の県奨励品種『ヒノヒカリ』を栽培し、JA を中心に販売している。また、直売する米は地域ブランド『やすまろさん米』として、都市住民の方との交流を通じて販売している。

小麦は水稻との二毛作として栽培しており、県内最大規模の栽培面積となっている。畜産農家と連携した耕畜連携として WCS にも取り組んでおり、水田への堆肥施用も積極的に行っている。



写真 2 安萬侶さん米

(2) 当該集団等による生産力の向上、生産の組織化、生産・流通基盤の整備等への寄与状況

平成 27 年度、水稻の育苗ハウス 7 棟を新設し、JA から水稻の育苗約 3 万枚を受託、JA を通じた稲刈り作業の 4.2ha 受託も行っており、保有する農機を効率的に活用している。

現在、集積した農地については、地籍調査を進めており、先行して調査が終了した圃場で平成27年度新設した育苗ハウスは、畦を取り、大区画化できたので、次年度以降、順次地区内農地の大区画化を目指している。

また、水田管理の省力化に向け、データに基づく水管理ができるよう近畿大学の研究室と連携し、圃場管理センサー等を使ったICT農業も検討している。

更に、水稲に代わる高収益作物への転換を目指して、同年より加工用カット野菜「キャベツ」作付けにも挑戦している。



写真3 小麦の刈り取り作業

(3) 当該集団等の活動による構成員等の経営の改善、後継者の育成・確保、女性の経営参画の促進状況等

小麦栽培については、各組合員に担当する圃場を決め、各自が責任を持って日常管理を行っている。毎年、栽培前には中部農林振興事務所やJAならけんから講師を招き、研修会を実施し、若い世代を中心に技術向上に努めている。平成28年には、定款を変更し、理事数を増やし、兼業農家ではあるが、将来の営農組合を担う50歳台の若手2名を理事に選出した。

営農組合は、新たな品目への取り組み等により収益向上を目指している。特に婦人部に営農組合と積極的に関わるように働きかけ、営農組合で作った小麦、米粉などの材料を提供し、郷土料理のレシピや加工品開発等の6



写真4 半夏生もちづくり

次産業化を目指した研究開発に取り組んでいる。現在、理事7名と婦人部で6次産業化検討プロジェクトとして小麦や米粉、イチゴなど地場農産物を使った加工品（半夏生餅など）のブランド化や直売所への出品、自前の販売施設整備、人材育成などの中・長期目標と計画策定に取り組んでいる。

3. 生活・環境整備面における特徴

(1) 当該集団等の生活・環境整備面の取組状況

多地区では、集落営農組合、自治会、婦人部等で組織する『多集落を守

り美しいむらづくり隊』という名称で活動組織を結成し、平成 19 年から地域住民が共同で農村の持つ多面的機能を維持し、水路、農道の整備や地区内の景観向上の活動を行っている。美しい田園風景や農道、用排水路は、地域の人々だけでなく、観光の拠点「多神社」を訪れる人、子供たちに農業や自然、生き物を肌で



写真5 多集落を守り美しいむらづくり隊

体感してもらうことができる。集落内にプランターを設置し、用排水路の清掃、修繕などは常に集落営農組織が活動のリーダーとして企画、運営してきた。

こうした活動を継続してきた結果、地域住民にも良い刺激となり、食育だけでなく、米の消費拡大、そして次代の多地区を担う後継者育成につながるものと考えようになり、周辺自治会4集落を巻き込んだ地域づくり団体『美しい多地区の田園風景を楽しむ会』につながり、今日も継続されている。

(2) 当該集団等による生活条件の改善・整備、コミュニティ活動の強化、都市住民との交流等への寄与状況

集落内の高齢者は、古くから伝わる慣習や水利慣行、これまでの経験から個々の水田の特徴などを把握している。中でも集落営農組合の水稲・小麦等の栽培では、水管理、圃場条件に合った施肥、用排水路の取扱や補修などを高齢者が日常のきめ細やかな管理の一端を担うことにより、営農組合の生産性向上につながっている。

また集落営農組合では地域内の住民相互のコミュニケーションづくり、交流の場として『サロン』を開催し、高齢者から若者や子供たちに地域の風習などを語り継いでいる。各種イベントの機会に、高齢者は、地元野菜を使った郷土料理などの振る舞い等に携わっている。このように、高齢者は、地元だけでなく田原本町外からの来訪者への歴史、農村に伝わる文化の伝承役として都市農村交流活動の活性化を担っている。

また集落の外れ、水田の中にある集落営農組合の倉庫は、普段は農機具の格納庫、秋の稲刈り時期には、ライスセンターとして米の乾燥調製施設としてフル稼働しているが、子供



写真6 田んぼの水族館 生き物観察

たちの田植えや稲刈り体験イベント、夏に用水路の生き物を観察する『生き物観察会』などの活動拠点となっている。このような地域イベントは、多地区だけでなく、必ず隣接する4集落にも参画を促し、集落相互の交流の場となるよう提供している。農作業体験などは100名以上の参加があり、普段格納してある農機具を外に出して食事などの交流会場に行っている。イベント前日から組合員が総力で準備の必要はあるが、訪れる都市住民にとっては、外に出した大型農業機械や、稲穂などの自然とふれあうことのできるオープンスクールとなっている。

(3) 当該集団等の活動による地域への定住促進、女性の社会参画の促進状況等について

「美しい多地区の田園風景を楽しむ会」が実施する体験などの各種イベントでは、組合員と婦人部が一丸となって地域を訪れる方への『おもてなし』に注力し、婦人部には地域の伝統を活かした料理メニューや米粉を使った野菜の天ぷらや小麦、米粉を使った半夏生餅、地元産小麦のお菓子などの振る舞いを担ってもらっている。

イベント回数を重ねる毎に新たなメニューを提供するなど婦人部活動の活性化につながっている。集落営農組合としても、今後の6次産業化を見据えており、集落営農倉庫を婦人部活動の拠点とし、食品衛生管理に関する講習会を開催するなど婦人部の活動を全面的に支援している。

平成30年には田原本町内の唐古・鍵遺跡の隣に農産物直売所「(仮称)レスティー唐古・鍵」がオープンする。直売所の一角に多集落営農ブースを設置する計画で町役場等と調整中であり、現在、6次産業化に向けた自治会婦人部とのプロジェクトも販売拠点ができ、本格稼働を目指している。